

目標および成果指標の設定 記入様式

活動団体名： 株式会社山都竹琉

上位関連計画にみる地域の将来  
 ○地球温暖化対策推進法や政府の目標：2013年度比で2030年までに46%削減、2050年までにカーボンニュートラル達成  
 ○第5次エネルギー基本計画における、2030年に実現を目指す再エネの電源構成比率：22～24%、2030年に実現を目指す実質エネルギー効率（最終エネルギー消費量／実質GDP）35%減。  
 ○現在の人口：13,503人、将来：10,396人（2030年）、6,440人（2045年）（日本の地域別将来推計人口（平成30年推計））  
 ○人口目標 現状：13,503人→目標：6,700人（2060年）  
 ○ごみのリサイクル率 現状：15.3%→目標：16.4（2024年）

②具体的な取組  
 ●空き家活用移住体験：移住促進、体験活動  
 ●竹鶏糞堆肥：竹利活用、ブランド化  
 ●圃場見回りロボット：省力化、鳥獣害対策

①ありたい未来  
 豊かな自然、文化資本を「経済資本」へ転換する永代不朽のまち  
 ・永代不朽のまちづくり  
 山都町には支えあいや創意と団結の象徴である、江戸時代から続く石橋「通潤橋」がある。当時の水不足という地域課題を解決した石橋造りは、未代までの地域の発展を願い「永代不朽」を合言葉に地域の人々が協働して完成した。ステークホルダーをはじめとする地域住民が石橋造りの原点に倣い、「永代不朽のビジョン」を掲げ将来の橋渡し役を担う。  
 ・自然、文化資本を「経済資本」へ  
 地域の人情や和を大切に「文楽」、自然を敬い、神に感謝する「神楽」などに象徴されるように、農村社会の中で「自然に感謝し、支えあい一人ひとりを大切に」という精神文化がある。  
 田舎で暮らすことの価値観を共有し、人間として本来の在り方を見失わない力強い地域社会を築き上げる。  
 自然に対する高い倫理観を持ちつつ、環境に負荷のかからないよう自然、文化資本の経済資本への転換を図る。

③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2022年度末)	実績値 (2022年度末)	単位
環境	ニホンミツバチ養蜂農家	養蜂農家数	5	7		軒
	有害鳥獣被害対策	有害鳥獣による農地、林地被害面積	38.2	20.0		ha
	持続可能なまちづくり	ごみのリサイクル率	15.3	15.8		%
	竹林整備	竹資源の整備面積（チップ、パウダー）	20	25		ha/年
	森林整備	木質資源の整備面積（薪等）	15	20		ha/年
経済	竹資源活用	竹資源の販売量（チップ、パウダー）	60	70		t/年
	木質資源活用	木質資源の販売量（薪など）	2,000	2,200		t/年
	観光まちづくり	山都町の入込客数の増加	508,257	550,000		人/年
	農林業の振興	主要農畜産物等販売高実績	4,603,161	4,800,000		千円
	地域循環経済率	地域循環経済率の改善	60.6	62.0		%
社会	保全活動	林業経営体数	172	180		戸/年
	移住・定住	移住者数減少の抑制	20	27		人/年
	多様な主体によるまちづくりへの参画	農業従事者数の増加	10	10		人/年
	住民主体の地域づくり	「住みやすい」と感じる人の割合	73	78		%

④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2022年度末)	目標年度 2030-2050年度	目標値	単位
環境	ニホンミツバチの生息状況	養蜂農家数	5	7	2030	10	軒
	有害鳥獣被害対策	有害鳥獣による農地、林地被害面積	38.2	20.0	2030	16.0	ha
	持続可能なまちづくり	ごみのリサイクル率	15.3	15.8	2030	17.0	%
	地域資源循環	竹資源の整備面積（チップ、パウダー）	20	25	2030	40	ha/年
	地域資源循環	木質資源の整備面積（薪等）	15	20	2030	30	ha/年
経済	竹資源活用	竹資源の販売量（チップ、パウダー）	60	70	2030	90	t/年
	木質資源活用	木質資源の販売量（薪など）	2,000	2,200	2030	2,500	t/年
	観光まちづくり	山都町の入込客数の増加	508,257	550,000	2030	1,000,000	人/年
	農林業の振興	有機農産物生産量の増加	4,603,161	4,800,000	2030	6,000,000	千円
	地域循環経済率	地域循環経済率の改善	60.6	62.0	2030	65.0	%
	バイオガスプラント	バイオガス発電量	—	—	2030	25	kw
社会	保全活動	植樹数の増加	172	180	2030	200	戸/年
	移住・定住	移住者数減少の抑制	27	20	2030	20	人/年
	環境教育の推進	グリーンツーリズムガイドの人	—	—	2030	3	人
	多様な主体によるまちづくりへの参画	農業従事者数の増加	10	10	2030	12	人/年
	住民主体の地域づくり	「住みやすい」と感じる人の割合	73	78	2030	85	%

⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

当事業を実施することによる成果（短期目標）を積み上げることで、長期的な山都町全体の目標（アウトカム）を生み出すことを想定している。数値化しやすく、把握でき、様々な取り組みのKPIとなる指標を抽出。環境・社会・経済のバランスが良いまちづくりを目指す。環境面では森林整備や生態系維持、ごみのリサイクルを指標として環境保全を目指す。経済面では、観光客の増加と農産物生産量の増加を指標として、外貨獲得を目指す。社会面では植樹、グリーンツーリズム、農業従事者などまちづくりに関わる人の増加を指標として、担い手の確保を目指す。